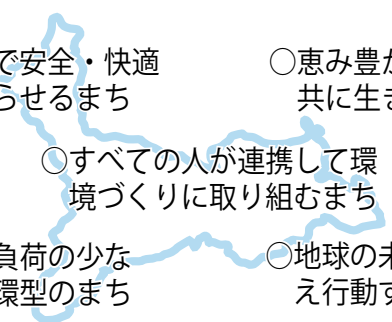


# 北上市環境基本計画を改定しました

市は、「北上市環境を守り育てる基本条例」に基づき平成23年度から32年度までを期間とする北上市環境基本計画を策定しました。同計画は市の環境行政の基本的な考え方を示しています。

計画策定当初からこれまでの間に变化した社会情勢を反映し、今年3月に計画の改定を行いました。市民の皆さんへ変更点の概要をお知らせします。

## ■ 計画の基本目標

- 
- 健康で安全・快適に暮らせるまち
  - 恵み豊かな自然と共に生きるまち
  - すべての人が連携して環境づくりに取り組むまち
  - 環境負荷の少ない循環型のまち
  - 地球の未来を考え行動するまち

## ■ 計画が対象とする区分

区分	環境項目
生活環境	大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、地盤沈下、化学物質、身近な緑・水辺、都市アメニティなど
自然環境	多様な自然、生物の生息・生育環境、自然景観など
資源循環	廃棄物、リサイクルなど
地球環境	地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨など

## ■ 北上市が目指す環境像

～ともに育み未来につなぐ 水清く緑あふれる 環境共生都市 きたかみ～  
望ましい環境のすがたを実現するために、さまざまな施策を展開しています。

## ■ 追加・変更点

### ●東日本大震災後に開始した空間放射線量の測定について追記

市は現在、毎週水曜日に市役所本庁舎で空間放射線量を測定しており、その結果、国の指標値である0.23マイクロシーベルト/時を下回っていることを確認しています。

### ●生物多様性国家戦略の最新内容を反映

国が策定した生物多様性国家戦略の内容を最新のものに更新。最新の同戦略2012-2020では、生物多様性の危機を「4つの危機」として整理し、第1が開発など人間活動が直接的にもたらす危機、第2が自然に対する人間の働きかけの縮小による危機、第3が外来種など人間により持ち込まれたものによる危機、第4が地球温暖化など地球環境の変化による危機としています。

### ●岩手中部クリーンセンターにおける可燃ごみ処理の広域化について追記

27年度から岩手中部クリーンセンターが稼働し、北上市、花巻市、遠野市、西和賀町の可燃ごみを処理しています。同センターは、ごみを効率よくエネルギーに変換し、焼却灰をセメント原料にするなど、環境に配慮した施設です。高温での安定燃焼などにより、ダイオキシン類の発生抑制に努めています。

### ●第21回気候変動枠組条約締約国会議の内容を反映

気候変動枠組条約第15回締約国会議についての記載を27年度に開催された気候変動枠組条約第21回締約国会議の内容へ変更。この会議では、産業革命前からの平均気温上昇を2℃未満に抑えることを目標とした、すべての国が参加する公平な合意であるパリ協定が採択されました。日本は、42年度の温室効果ガス排出量を25年度比で26%削減する目標を日本の約束草案に明記しました。

### ●再生可能エネルギーの活用目標について追記

市は、省エネ型家電への転換や日常的な省エネ行動などにより、32年度には家庭の電力消費量を22年度比で10%削減することを目標としています。また、太陽光発電などの導入推進により、32年度には家庭の電力消費量の30%相当分の再生可能エネルギーの導入を目指しています。

### ●北上第1・第2ソーラー発電所の稼働について追記

26年度から北上第1・第2ソーラー発電所が稼働し、率先した再生可能エネルギーの活用を推進してきました。また、売電収益を今後のエネルギー関連事業に投資し、環境負荷の少ないまちづくりに継続的に取り組んでいきます。

問い合わせ 環境政策課 ☎72-8281

# 北上市ごみ処理基本計画を改定しました

市は、「めざせ!!ごみゼロのまち☆きたかみ」を掲げ、平成23年度から32年度までを期間とする北上市ごみ処理基本計画を平成23年に策定しました。策定からこれまで、市民、事業者、行政が協働で資源循環型社会の実現を目指し、ごみの減量と資源化に取り組んできました。

計画策定から5年が経過し、廃棄物を取り巻く環境の変化を踏まえ、計画のビジョンおよび基本方針はそのまま継承した上で目標値および目標達成に向けた取り組みを今年3月に見直しました。市民、事業者、行政が協働し、新たな目標の達成に向け取り組むこととしています。

## ■ 計画のビジョン

**ごみゼロを考え行動する、循環型社会の貢献者へ  
～一人1日ごみ100g 減量～**

## ■ 計画の基本方針

- ①市民、事業者、行政がそれぞれ資源循環の役割と責任を果たしていきます
- ②循環型社会を築いていきます
- ③3Rの推進に努め、総合的なごみ管理を行っていきます
- ④環境に配慮し、効率的なリサイクルと安全・安心なごみ処理を進めます

## ■ 実績と新たな目標

項目	実績 (平成27年度)	新たな目標 (平成32年度)
●ごみの総排出量	25,937t/年	23,100t/年
●一人1日当たりごみ排出量	758g/人・日	686g/人・日
◆家庭系ごみ	482g/人・日	445g/人・日
◆事業系ごみ	276g/人・日	241g/人・日
●リサイクル率	19.4%	23.0%
●事業系生ごみリサイクル量	335t/年	400t/年
●最終埋立量	2,065t/年	1,000t/年
●集団資源回収	1,257t/年	1,500t/年

「ごみ分別アプリ」のダウンロードはこちら



App Store



Google play



## ■ 新たな目標の達成に向けた取り組み

### ●市民が行うこと

- ◆リデュース(発生抑制)
  - ・計画的な食材の購入、食材の適切な管理や使用により食品ロスを削減する
  - ・宴会では出された料理を食べ切る
  - ・買い物ではマイバッグを利用し、レジ袋を辞退する
- ◆リユース(再使用)
  - ・物を大切に扱う。故障しても修理し、繰り返し使う
  - ・不要となった物を必要としている人に譲る

### ●事業者が行うこと

- ◆リデュース(発生抑制)
  - ・廃棄商品をなくすよう工夫する
  - ・食べ残しを減らすよう呼びかけや啓発を行う
- ◆リサイクル
  - ・紙類の資源化を徹底する
  - ・生ごみのリサイクルを推進する

### ●行政が行うこと

- ◆ごみ減量・リサイクル
  - ・集団資源回収の利用を促進する
  - ・ごみ分別アプリを有効に活用し、ごみ情報を伝える
  - ・ごみ情報の多言語化を図る
  - ・不適正排出者や不法投棄者に対しごみの分け方や出し方を指導する

問い合わせ 環境政策課 ☎72-8284

## 食品ロスを減らし生ごみの発生を抑制しよう！

- ①**食品ロスとは**…日本では「食材の過剰除去、賞味期限切れ、食べ残し」などにより、本来食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が年間621万トン発生しています(農林水産省「平成26年度推計」)。これは世界全体の食糧援助量の約2倍にもなり、日本人1人当たり、毎日お茶碗1杯分(約134g)のご飯を捨てている計算になります。
- ②**食品ロスの現状**…年間621万トンの食品ロスのうち、約半数が家庭から排出されています。また、農林水産省の調査結果によると宴会では14.2%の食べ残しがあるとされ、市民一人一人が食べ切ることを意識し、実践することが、食品ロスの削減に繋がります。

### 家庭における食品ロスの内訳

